



ポイント

得苗率は6～9割と様々。得苗率の向上が課題

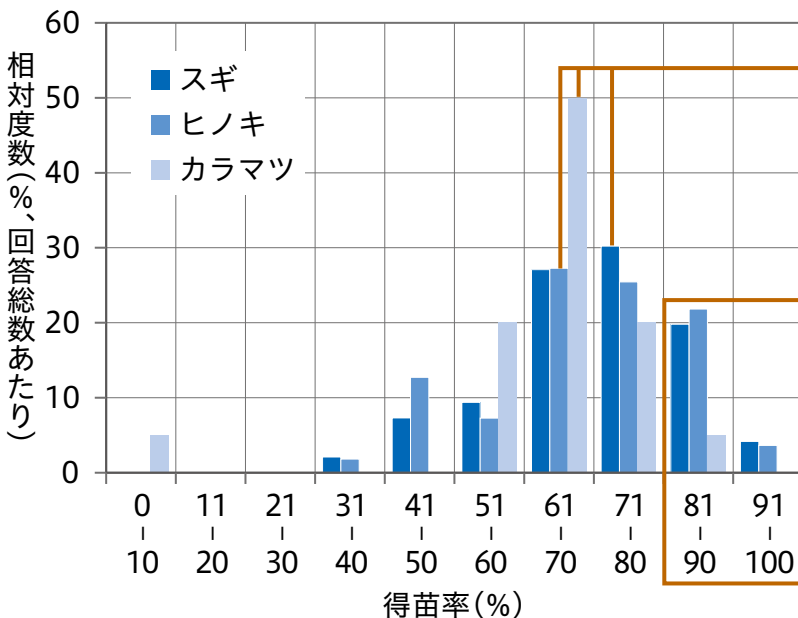
コンテナ苗の抜き取り方法

抜き取り機	手作業
62%	38%

梱包資材

ネット	土嚢袋	ダンボール	箱と袋併用	ネットと土嚢袋併用	ビニール袋	その他
46%	16%	15%	11%	5%	5%	2%

各樹種における得苗率の頻度分布

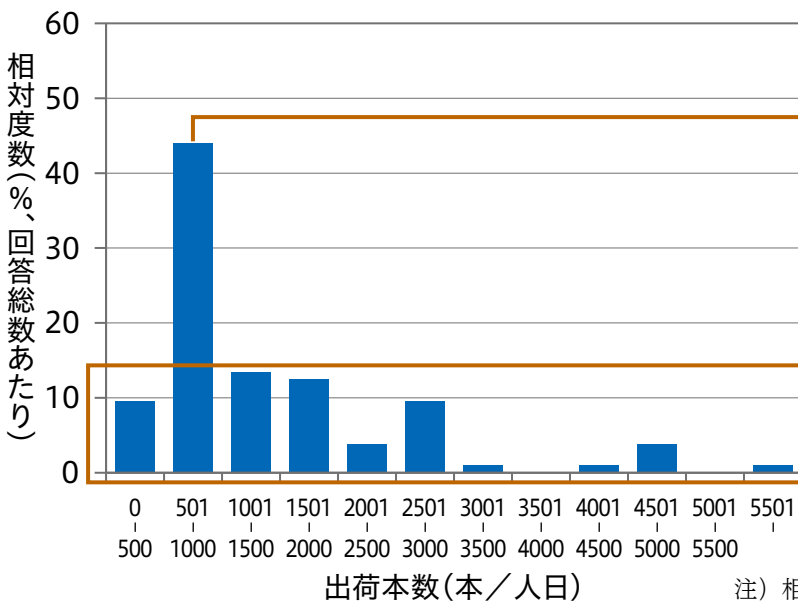


得苗率（回答値）は、スギで71～80%、ヒノキ、カラマツで61～70%とした生産者が最も多い結果となりました。

スギとヒノキでは得苗率が80%以上あると回答した生産者が全体の約25%でしたが、カラマツでは5%と少数でした。

注) ここでの得苗率とは、生産者の回答した得苗率（記入値）を表しています。

人日あたりのコンテナ苗の出荷本数の頻度分布



出荷効率をみると、出荷本数が501～1000本/人日と回答した生産者が全体の44%と最も多い相対度数（件数）となりました。

それ以外の出荷本数ではそれぞれ生産者の10%前後でした。

注) 相対度数：有効回答総数に対する各階級の件数の割合。



## ポイント

得苗率を下げる主な原因は成長不足、根鉢形成不良

## コンテナ苗を出荷できなかった要因

内容	割合
規格外	90%
規格より小さい	(46%)
サイズのばらつき	(24%)
直径不足	(18%)
規格より大きい	(2%)
根鉢形成不良（根の成長不足）	44%
枯死	28%
外観、形状が悪い（色 / 曲 / 折 / 枝枯れ / 二又 / 枯れ上がり）	26%
根腐れ	5%
移植苗が小さかった	1%
その他	1%

注) 数値は回答生産者数あたりの割合。「規格外」のカッコ内の割合は、その内訳の割合。  
複数回答可のため、数値の合計値は100を超えます。



出荷規格は都道府県によって、また、樹種によっても異なりますが、苗が規格外であることが得苗率を下げる一因と感じている生産者が全国的に見られました。

苗の直径は根量と明瞭な正の相関があることから、直径不足は根鉢形成不良と密接に関係しています。

出荷できなかった要因として直径不足(18%)や根鉢の形成不良(44%)と答えた生産者を合わせると、実に全体の62%の生産者が苗の肥大成長や根鉢形成に問題を感じていると言えます。

今後は、肥大成長や根鉢成形性を高める育苗技術が重要になると考えられます。